

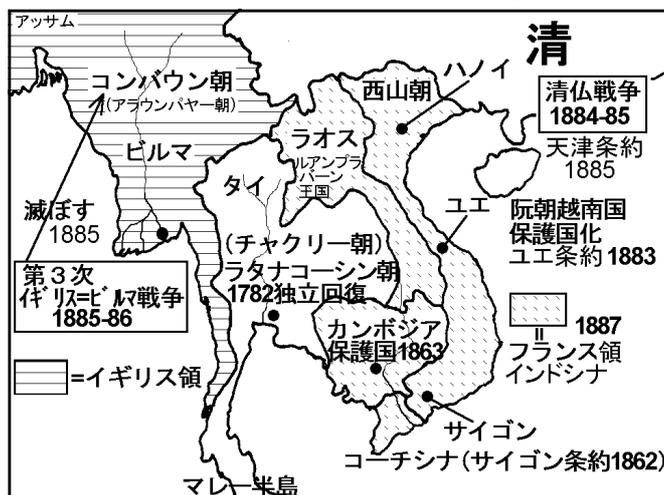
- 1799年 オランダ東インド会社は解散し、オランダ政庁による直接支配により、インドネシアの植民地化が実行された。
- 1811年 ジャワ島はイギリスに占領される。(オランダ本国はナポレオンに占領されている)
- 1816年 ジャワ島、オランダに返還される。 ←ウィーン議定書
- 1821-38年 **パドリ戦争** イスラーム改革派が鎮圧をはかるオランダと戦争(スマトラ島西部)。01W、01R、06M
- 1824年 【9: 】でイギリス・オランダの境界線をマラッカ海峡に決定。イギリスのマレー半島支配、オランダのインドネシア地域支配を認め合う。マレー語文化圏が寸断され国民国家の形成が困難となる。
- 19世紀に入ると、オランダはコーヒー・サトウキビ・藍などの商品作物を導入し、オランダ政庁は具体的に生産を指示し、生産物を低価格で買い取った。これも酷いものであるが、後述の強制栽培とは異なる。このような政策に対して大規模な反乱が発生した。
- 1825-30年 【10: 】 オランダの暴政に対し、ジャワ島の王族**ディポネゴロ**が指導するイスラーム諸侯の反オランダ反乱が起きた。これを鎮圧したオランダはジャワ全島を制圧したがオランダ政庁の財政窮乏を招いた。
- 1830年** オランダは、ジャワ島で【11: 】を始めた。
これを推進したのはオランダ領東インド総督**ファン=デン=ボス**(任1830-33)である。
【11】とは、ジャワの農民、小作人に彼らの農地または労働時間の20%をオランダ政庁の指定する作物の栽培に充て、収穫物をオランダ政庁だけに売るよう強制する制度。指定の作物とは、コーヒー、サトウキビ、藍などのヨーロッパ向けの商品作物である。買い上げ価格は安く、**オランダ政庁は莫大な利益をあげた**。その際賦役制度、村落行政制度を利用した。労働力を奪われ、米不足による米価高騰に悩まされ飢饉も続発したので**1870年にコーヒーを除いて廃止された**。
- 1912年 アチェ戦争(1873-1912)に勝ったオランダは、今日のインドネシア連邦のほぼ全域に相当する領域を支配下におさめた。これを【12: 】と呼ぶ。
ただし、【13: 】はポルトガル領として残された。
1975年にポルトガルが撤退すると、早速インドネシアが占領したが紛争となり、2002年に国連監視下で独立した。

新しい？民族文化

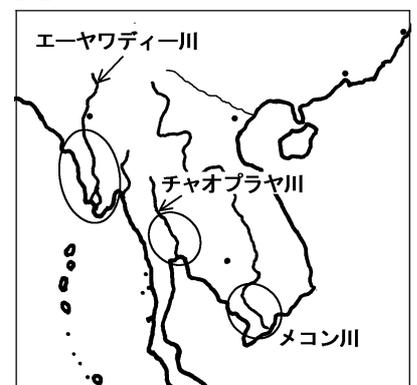
たとえば、【14: 】が多数を占めるバリ島では、独特の舞踊・音楽が伝承されている。観光客はさぞ古くから伝承されたものだろうと思つて鑑賞するが、実は1930年代に創作されたものも多い。支配国での東洋趣味や海外旅行ブームに刺激されて、バリ島でも様々な芸能、料理、服飾が流行し、その中で最も受けがよかった(欧米人の好みにあった「バリ島風」な)ものが生き残り、伝承されている。ヒンドゥーの伝統は生きてはいるがそのものではない。作られた新しい民族文化なのだ。文化融合は多民族交流国家インドネシアの特徴。国是は「多様性の中の統一」。

現代のインドネシア共和国(2007年の統計)では、**イスラーム教が76.5%**、キリスト教が13.1%、ヒンドゥー教が3.4%、他。イスラーム教徒の人口は、1億7000万人を超え、世界最大のムスリム人口を抱える国となっている。ただし、憲法で信教の自由を保障しており、シャリーアによる統治を行うイスラーム国家ではない。

ビルマ(現ミャンマー) → イギリス領(インド帝国)



18世紀中ごろ、タウングー朝(トゥングー朝)が中国人の反乱をきっかけに、**モン人のペーグー王国**(一度衰亡したが再興した)に滅ぼされた。ビルマ人勢力によって【15: 】が建国1752-1885された。これはビルマ最後の王朝。18世紀が全盛期。ほぼ現在のミャンマーの全領域に相当する領域を支配した。タイのアユタヤ朝を滅ぼし清軍を撃退(その後一時清に朝貢)、インドの【16: 】地方にも進出した。イギリスとの3回もの【17: 】(1824-26・52-53・85-86年)に敗れ、1885年コンバウン朝は滅亡。1886年、イギリス領インド帝国に併合された



三大デルタ地帯

三大河川は位置とともに必ず記憶せよ→

- 1) 植民地時代、大陸部のエーヤワディー、チャオブラヤ、メコンの三大デルタ地帯では、**水田開発**が更に進み、島嶼部などへの輸出を強いられた。水田開発が困難な島嶼部はもちろん、輸出作物の栽培ばかりを行い【18: 】を強いられて食料を自給できない地域や人口過剰地域に対して、米が輸出された。
- 2) 家族経営は東南アジア農業の特質である。たいていの場合、水田は大土地所有者のものであるが、莫大な量の輸出米は小作人が家族経営で生産していた。コーヒー、ゴム、果樹などはさすがにプランテーションが多いが、この分野でも家族経営が行われ併存していた。